

春 告 草

第 106 号 平成 30 年 5 月 16 日 進路指導部発行

いきたい学部・学科はいつ決まる？いつ決める？

皆さんは卒業後の進路をどのように考えているだろうか。そしてその先の人生をどのように設計していくのだろうか。表 1 は卒業生の進路状況だが、その多くが現役で大学に進学していく。昔は大学入学者の半数は浪人生で、「一浪」と書いて「ひとなみ」と読んだ時期もあったが、今では受験人口の減少もあり、現役進学率は高くなってきた。3 期生の大学進学率は 9 割に手が届く水準である。

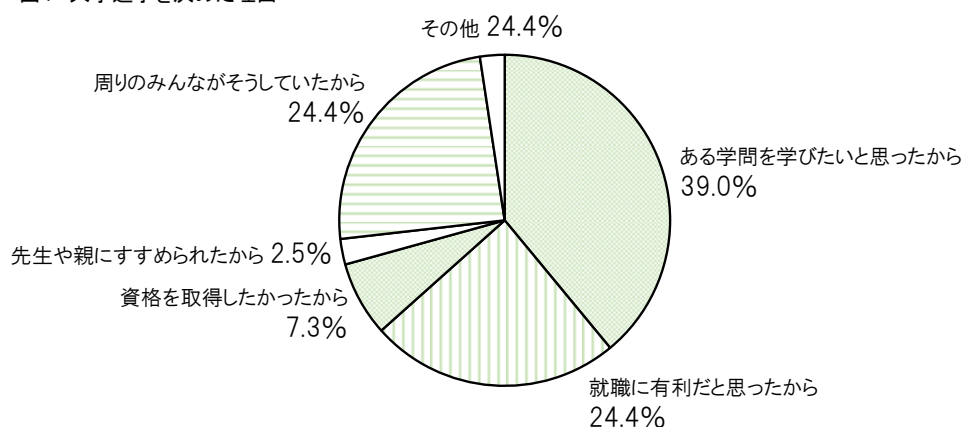
大学へ行くのが当たり前の時代になったが、中には大学へ進学する意義も考えないまま進学し、入学後不適応を起こし、退学・再受験する人も少なからずいると聞く。幸いなことに本校では卒業までにステージ論文を 3 本書き上げることになっているので、論文を作成する過程で、大学進学の意味や学びたい分野などを見つける人は多いことと思う。今回は、進路決定、進路選択の時期について考えてみよう。

表 1 卒業生の進路状況

進路区分	3 期生			2 期生			1 期生		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒業生総数	67	82	149	70	82	152	84	68	152
大 学	56	74	130	52	73	125	60	60	120
短 大	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専修学校	1	1	2	0	2	2	1	1	2
就 職	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	2	2	0	1	1	0	0	0
計	57	77	134	52	76	128	61	61	122
進学準備	10	5	15	18	6	24	23	7	30
進路決定率	85%	94%	90%	74%	93%	84%	73%	90%	80%

大学進学の原因は何？

図 1 大学進学を決めた理由



本校へ入学した理由の一つには「大学へいきたいから」があるのだと思います。では、「どうして大学へいくのだろうか？」と考えたことはあるだろうか。図 1 は「大学進学を決めた理由」について、旺文社が調査した集計結果である。取り組んでみたい学問が見つかったとする理由が最多であることに安心したが、「周りのみんながそうしていたから」も全体の 4 分の 1 近くを占める。もし、みなさんの中で大学進学の原因が仮に明確でなかったとしても、みんなが大学進学を目指すという今の環境は、自分の背中を押してくれる要素として前向きに捉えてみてはどうだろう。肝心なのは、そのきっかけから自分の進むべき道をどう組み立てていくかということだ。

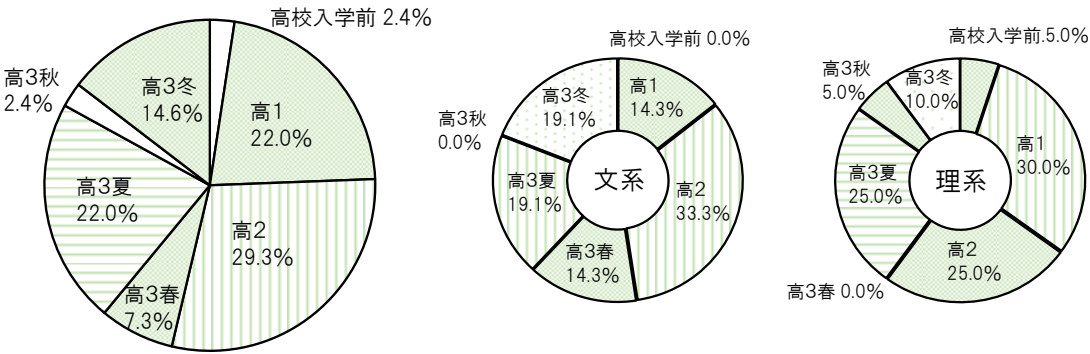
学部・学科はいつ決める？いつ決めた？

表 2 は 3 月に行ったスタディサポートの学習状況調査の結果である。「進みたい分野」について、学年別に各分野の割合(%)を掲載してある。現在の学年にそれぞれ進級する直前の調査であり、4 年生については 3 年時に行った調査結果であるから、「大学には行きたいが、進路は未定である」が学年全体の 4 分の 1 を占めているのも、ある意味当然の結果とみている。5 年生、6 年生の調査結果を隣に並べたが、同じ集団の時系列データではないので、推移についてはみないでおう。ただし、4 年時には定まっていなかった進路目標が、学年進行に従って少しずつ明確化されていく傾向はある。

図 2 のグラフは、1 期生から 3 期生までの卒業生の調査結果を合わせたものである。学年進行に従って、進路未定が減っていく様子が分かるだろう。また、理工系志望の割合は変化が少ない一方、法・経済・商・社会系統の増加割合が顕著であることが分かる。これは社会科学系統の学部を設置している大学が多いことに加え、成長と共にこういった分野への興味、関心が高まり、未定だった人の多くが法学・経済学系統へと進路希望を絞り込んでいく様子が伺える。

志望校決定は理系が早い

図3 志望校を決めたのはいつですか？



理工系統を志望する生徒の割合は大きく変動していないと述べたが、これは理系志望者が文系志望者に比べて早い時期に志望校を決めているということにもつながっている。もう一度、旺文社の調査結果をみていこう。

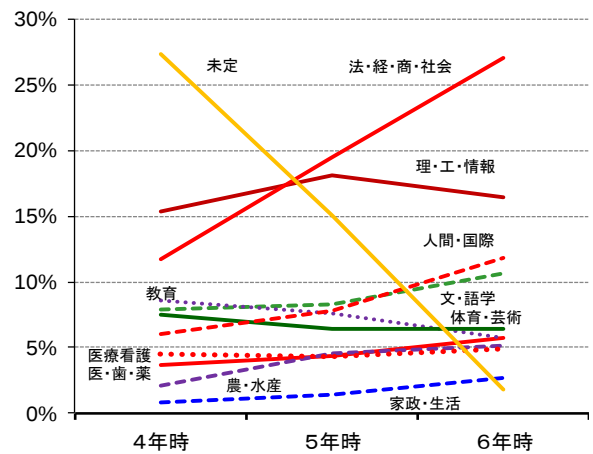
図 3 は「志望校を決めた時期」についての集計(%)である。全体では高 2 までに半数以上の人志望校を決めている。文理別の集計では、文系に比べて理系の人の方がこの時期までに志望校を決めている割合は断然多いことが分かる。理系の生徒は早い時期から「医師に就きたい」「食糧問題の解決に貢献したい」など、早いうちから自分の将来を決めているというレポートもあり、文系・理系での志望校決定のタイミングの差になって現れているようだ。

本校では 5 年生 3 学期までには志望大学・学部が絞り込めるよう指導し、6 年進級前には「第一志望校宣言」を提出させている。

表2 興味のある学部系統(%)

分野	4年生	5年生	6年生
理・工・情報系	25.2%	21.6%	22.5%
医・歯・薬系	4.5%	7.9%	4.6%
農・水産・獣医畜産系	3.9%	6.5%	2.6%
文・語学系	3.9%	10.1%	16.6%
教育系	6.5%	4.3%	5.3%
法・経済・商・社会系	12.9%	16.5%	32.5%
体育・芸術系	4.5%	2.2%	4.0%
医療看護・福祉系	5.2%	2.9%	2.0%
人間・国際・総合などの学際系	5.2%	5.0%	6.6%
家政・生活科学系	0.0%	1.4%	3.3%
進学希望だが内容は未定	25.2%	18.0%	0.0%
その他	3.2%	3.6%	0.0%

図2 進路希望推移(卒業生集計)

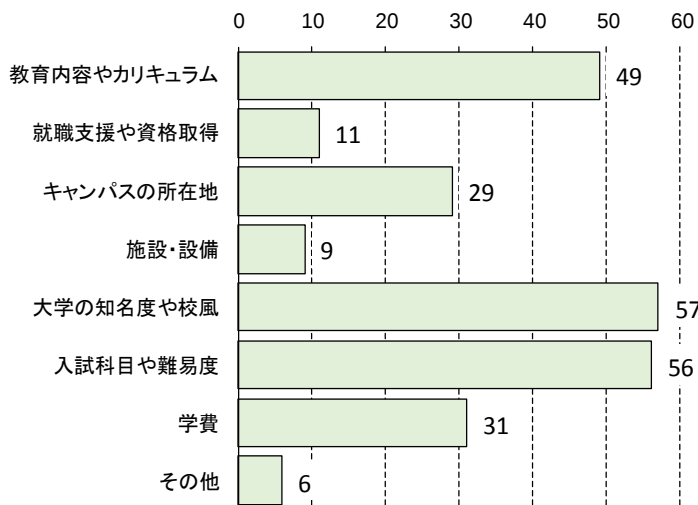


志望校選びにあたって、決め手となったポイントとは？

このアンケートでは、志望校を決めるにあたって重視したポイントを重要度順に1～3位まで回答してもらい、順位が高いほどポイントに重みをつけて集計している。その結果、総合順位で「重要ポイント」が最も高かったのは図4に示す通り「大学の知名度や校風」で、僅差で「入試科目や難易度」が続く結果となった。ただ、「重要度1位」として上がった項目としては「教育の内容やカリキュラム」と「入試科目や難易度」が同率トップとなっていて、理想（学びたいこと）と現実（合格できる大学）を慎重に天秤にかけ受験生の姿が浮かび上がってくる。

志望校を決めるうえで、入試方式や入試科目、そして難易度は重要な判断要素だ。ただ、入試は「大学に入って学ぶ」という目的に至るための、あくまで「手段」であるということは忘れずにいよう。軸は「何を学びたいのか」におきつつ、その理想を実現するためにどんな要素を見つければいけないか、できるだけたくさんの視点をもって判断できるようにしておきたい。

図4 志望校選びのポイント



大学探しの情報源は？

「志望校選びにあたって、情報源として特に参考にしたモノや人を教えてください」についての回答で一番多かったのは、「大学のパンフレット」。学部・学科の特徴や在学生の声から前年度入試の結果まで詳細に説明されている。また、大学が発行している広報誌は、特に入試に特化した編集がされているわけではないが、大学の学風を感じるには良い資料となる。東工大の(TechTech・テクテク)は進路室にも置いてあるので一読を薦める。東工大の教授の座談会など、読んでみてワクワク感を感じる人も多いのではないだろうか。卒業後起業し、成功したOBの記事などは大学在学中、どのように学生時代を送っていくかの指標になるはずだ。一橋大学の「HQ」(Hitotsubashi Quarterly)も格調高い。「一橋の授業」という記事を読めば、より一層一橋で学びたいという気持ちが高まるはずだ。「一橋の女性たち」は女子生徒に限らず、大学生活やその後のキャリア設計にも勉強になる内容だ。残念ながら、紙媒体での発行はなくなり、今年度からWeb版での閲覧になった。

2位は「オープンキャンパス」である。大学の実際の空気を感じ、学生の生の声を聞ける場として受験生や高1、高2生に広く受け入れられている。オープンキャンパスに足を運んだ回数は「1回」が3割を超えて最も多く、以下3回、2回、5回以上と続いている。今年の夏のオープンキャンパスも6月に入ると申し込みが始まる大学もある。各大学のホームページで事前に調べておこう。4年生、5年生は夏休みの課題にもなるので、計画を立てておこう。

3位以降は順に、受験雑誌、塾や予備校の先生、高校の先生、大学以外の団体が運営するウェブサイト、大学の説明会や受験相談会、両親、友達、予備校発行の偏差値一覧、と続いている。



「TechTech」「HQ」の最新号。HQ 春号特別企画は「一橋の授業」。一橋新入生は勿論のこと、来年の新入生もモチベーションアップにはよい記事だ。Web版で読める手軽さはあるが、個人的には紙冊子の発行を再開してもらいたいものだ。

大学主催の体験教室に出かけてみよう

入試説明会、オープンキャンパスが各大学で計画されている。大学選びの情報源としては大変有益だが、体験授業など、体験イベントは学部・学科選びを進めていく際の貴重な判断材料にもなりうるものだ。昔は、オープンキャンパスは勿論のこと、こういった体験教室は無かった。インターネットで大学情報を調べることもできなかった時代は、受験雑誌に載っているほんの数行のコメントで大学・学部を選択していたものだ。思い返せば、その時代の大学選びは、偏差値・難易度が絶対的な判断基準だったのだろう。いろいろな情報が大学側から受験生に向けて発信されている時代だ。是非そのチャンスを積極的に自分の未来、可能性のために活かすよう行動してもらいたい。進路室に届いた大学主催の企画をいくつか紹介する。(詳細は各自各大学HPで)

東京農工大から体験教室、キャンパス体験のお誘い

●化学と物理の総合的理解で挑むエネルギー・環境問題と新素材・デバイス開発

期日:6月16日(土)14:00~17:30 小金井キャンパス科学博物館3階講堂

主催:東京農工大工学部化学システム工学科

内容:①化学物理工学科の紹介(農工大は31年度より学部が改組され、8学科→6学科体制になる)

②授業体験(燃料電池とリチウムイオン電池。その原理と未来の社会のカタチ/光を使ったセンサデバイス)

③研究室体験(自由参加、研究や実験の体験)

申し込み:6月8日(金)までに、電子メールまたはFAXにて

●農工大工学部キャンパスツアー・キャンパス体験

期日:6月23日(土)10:00~16:30 工学部小金井キャンパス

主催:東京農工大工学部

内容:①公開授業見学(大学生と一緒に授業体験ができます)

②学生ガイドによるキャンパスツアー

③大学教員による模擬授業(当日3回実施予定)

④その他、学生ガイドによるガイダンス、在学生による相談コーナー、サークル紹介、女子カフェなど

申し込み:ウェブサイトにて受付中

●公開講座 実演・実習 高校生のための野生動物学講座

期日:7月15日(日)9:30~16:30 農学部府中キャンパス

主催:東京農工大農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター

内容:①講義(野生動物保護管理、野生動物医学)

②実物供覧と治療技術(動物の供覧と治療技術の解説)

③実習(頭骨標本の観察、動物の取り扱い、聴診など)

④実演(動物の全身麻酔)

⑤研究紹介(卒業研究の紹介)

申し込み:先着順にて35名、農工大フィールドサイエンスセンター総務係 Tel 042-367-5812 Fax 042-367-5801

E-mail fskoho@m2.tuat.ac.jp (件名に「高校講座」と明記)

参加費:2,400円(申し込み後、振り込みで納入)

東京医科歯科大歯学部サマープログラム

期日:8月21日(火)東京医科歯科大学

主催:東京医科歯科大歯学部

内容:①スキルラボ見学(歯科治療用シミュレーション機器や道具を使って歯の模擬治療や歯科技工物を作ります)

②研究室訪問(研究紹介、ミニレクチャー、臨床見学、簡単な実験、機器操作、研究室・実験室見学)

③学科・専攻およびカリキュラム紹介

④病院見学、臨床実習見学

⑤模擬講義

⑥学生との懇談

申し込み:5月下旬からHPに公開

上智大学入試説明会

期日:6月3日(日)四谷キャンパス ソフィアタワー(6号館)1階 101 教室

内容:①学びの特徴や取り組みの紹介

②2019年度入試説明会

申し込み:Web サイトにて受付中 ※学長講演「国際協力・国際機関への道」、個別入試相談も同時開催